

議 事 録

会 議 名	第4期寒川町まちづくり推進会議 第7回会議		
開 催 日 時	平成28年6月16日（木）午後3時～4時55分		
開 催 場 所	寒川町役場 東分庁舎2階第1会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>○出席委員 島村委員、大川委員(会長)、小川委員、村崎委員、菊地委員、藤井委員、大谷委員、若林委員、山口委員、清田委員(副会長)、田邊委員、森井委員、平本委員、今井委員、小林委員</p> <p>○欠席委員 大関委員、谷村委員</p> <p>○事務局 中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、宮崎主査、内藤主事</p> <p>○傍聴者数 1名</p>		
議 題	<p>1 第4期寒川町まちづくり推進会議報告書（案）について ①報告書本文について（資料1） ②各委員会からの報告 ・協働PR委員会（資料2） ・まちづくりワクワク委員会（資料3）</p> <p>2 わたしの提案制度褒賞審査会へのまちづくり推進会議からの委員推薦について（資料4）</p>		
決 定 事 項	<p>○議事録承認委員の選出について ・田邊委員、平本委員</p> <p>○第4期寒川町まちづくり推進会議報告書（案）及び各委員会報告書の確定</p> <p>○寒川町わたしの提案制度褒賞審査会へのまちづくり推進会議からの委員推薦について →清田委員・小川委員を推薦</p>		
公開又は非公開の別	公 開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p>		

(大川会長) まちづくり推進会議は原則3回の会議だが、皆様方には2つの委員会を立ち上げていただき、大変お骨折りを頂いて本当に申し訳なかったと思う。おかげさまで立派な報告資料が出来たので、今日のご意見等を頂きながら最終決定をさせていただき、町長へ報告書を提出したいと考えている。アンケートの結果を見ても、未だ自治基本条例等の認知度は低く、来期会議の中でどのように取り上げて頂いて、さらなる進展を図っていくか、非常に期待をしている。また、様々な自由意見も頂いているので、これらを行政の特にトップのほうの方に見ていただき、今後の行政施策の中で生かして頂けたら良いかと思い、添付している。

3 議事録承認委員の選出

(芹澤協働文化推進課長) 議事録の承認委員の選出は、これまでのまちづくり推進会議では名簿順にお願いしている。本日は田邊委員、平本委員にお願いできればと思うが、いかがか。

(田邊委員) (平本委員) 了解した。

(芹澤協働文化推進課長) それでは、4の議題以降については、寒川町まちづくり推進会議規則第4条により大川会長に進行をお願いしたい。

(大川会長) それでは、早速、議題に入る。(1) 第4期寒川町まちづくり推進会議報告書(案)について事務局より説明をお願いしたい。

4 議題

(1) 第4期寒川町まちづくり推進会議報告書(案)について

① 報告書本文について(資料1)

(事務局) ー資料1の説明ー

(大川会長) 何かご意見等あればご発言をお願いしたい。ご意見がないようであれば、報告書について確定でよろしいか。

(各委員) 異議なし。

② 各委員会からの報告 協働PR委員会(資料2)

(大川会長) 次に、各委員会の報告を委員長よりお願いしたい。

(菊地委員) ー資料2の説明省略ー

(大川会長) 菊地委員長より報告を頂いたが、何かご意見等あればご発言をお願いしたい。

(菊地委員) 少し補足をさせて頂いてもよろしいか。

(大川会長) はい。

(菊地委員) 当初、協働PRチラシを作成する前段において、担当部課で自分達の手引書は作成するというので、委員会ではそこまでの入り口となるものを作成しようということを決めたはず。なので、担当部署、部課長レベルになるのかもしれないが、協働の手引書は作成して頂きたい。シ

ニアのキャリア活用については、ポイント制度について他市町村の資料を集めて検討したが、高齢介護課でもポイント制度を準備しているということで重複するため中止したという経緯。

(大川会長) はい、わかりました。他にご意見等はあるか。ないようなのでお諮りするが、これを委員会報告とすることにご異議ないか。

(各委員) 異議なし。

(大川会長) それでは、決定をさせていただく。

まちづくりワクワク委員会（資料3）

(会長) 次に、まちづくりワクワク委員会の報告を山口委員長よりお願いしたい。

(山口委員) —資料3 説明省略—

(大川会長) 山口委員長から報告を頂いたが、何かご意見等あればご発言お願いしたい。

(清田副会長) 本当に山口委員長はご苦労されて、一時はアンケートの実施が出来ないとなった時もあり、大変申し訳なかった。自由意見集には、小・中学校の保護者の方々の生の声が記載されているので、ぜひこれは一過性ではなく担当部署に十分読んで頂きたい。出来る、出来ないは勿論あるが、一つの大きなテーマとして、特に色々言われている地域の教育力、学校論等の問題もおそらくPTAの方も非常に関心があると思うので、ぜひ、何らかの形で生かして頂ければ有難いと思う。

(芹澤協働文化推進課長) アンケート結果と自由意見を含めた報告書については、庁議で報告し、職員にも周知をさせて頂きたいと思っている。

(山口委員) アンケート結果は、町ホームページへ掲載するとともに、協力して頂いた各小・中学校へも報告する予定となっている。また、別添の資料だが、前期推進会議からの提言に対する町の取り組みの回答と、進捗状況を一覧表で報告書としている。進捗状況について、以前は提言内容の枠毎に対して継続的な対応を要するもの、対応が十分ではないもの等の判断を入れていたが、提言の一つひとつに対して判断するのは難しいという意見もあったため、対応が十分されていないことの意味合いも含めて最終的に表の一番上に具現化に向け継続した対応について記載した形でまとめさせて頂いている。

(大川会長) では、質問もないようなので、まちづくりワクワク委員会の報告書は原案どおりでよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(大川会長) それでは、①の第4期寒川町まちづくり推進会議報告書の本文及び②の各委員会からの報告については、皆さんのお力添えで決定をさ

せて頂いた。

(2)わたしの提案制度褒賞審査会へのまちづくり推進会議からの委員推薦について(資料4)

(大川会長) 次に、(2) わたしの提案制度褒賞審査会へのまちづくり推進会議からの委員推薦についてだが、前回の会議での皆さんのご意見を参考に要綱を作成されているので、まず説明して頂き、それから委員の推薦に移りたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(中嶋町民窓口課長) 前回の会議の中で、要綱制定後に委員推薦についてご相談させて頂くことになっていたもので、本日、貴重な時間を割いて頂いたことに感謝しております。今回お願ひすることは、7月と1月の年2回、提案された案件の審査について、まちづくり推進会議の皆様の中から2名の審査員の推薦をお願ひしたいと考えているので、よろしくお願ひいたします。それでは、平成28年2月12日に施行いたしました要綱について担当より説明いたしますので、よろしくお願ひいたします。

(袴田主査) 一資料4の説明省略一

内申審査会が年2回のため、1月から6月分を7月に、7月から12月分を1月に提出することになっており、今回は5月までの段階で11件が内申予定者数となっている。

(大川会長) 要綱の内容について、簡単ですが説明があつたが、ご質問等あればご発言頂きたい。

(村崎委員) 第4条に、提案者に採用の可否、町の見解、対応方法を回答するとあるが、審査会でこの提案が優秀かどうかを評価することと、採用の可否の関連性はどうかを考えた方がいいのか。審査会では良い提案だという意見が出て、回答の採用の可否が「否」となったら、どうなのかと思う。

(袴田主査) 何をもとに審査するのかがわかりにくいため、最後から2枚目に、褒賞候補審査票を用意している。この中で実現性というところに採用されていれば高い点がつくということになるかと思うので、採用の可否と評価についてはリンクしてくる部分があると考えている。

(村崎委員) 良い提案なので採用し実施しますと、良い提案だが、〇〇の理由で実施しませんというのと、どっちが先なのか。

(袴田主査) 回答が先になる。

(村崎委員) あらかじめ回答も、審査の時に参考にできると。

(袴田主査) 頂いた提案に町が回答したものを添付し、審査をして頂くと考えている。

(大川会長) 他にご意見等あるか。副町長以下、部長級の方の組織に推進会議委員の2人を加えるということで、偉い方ばかりで心配になるのだ

が。

(大川会長) 他にご質問等はあるか。報告事項なので、ご承知置き頂きたいと思う。推進会議に依頼されているのは推進会議委員の2名をご推薦するということだが、来期も推進会議委員を務めていただく方の中で、我と思わぬ人は手を挙げて頂きたい。居なければ、私の方でご推薦申し上げてよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(大川会長) それでは、ご推薦申し上げる委員について、男性、女性一人ずつにしたいと思う。男性は清田副会長、女性は小川委員でいかがか。

(各委員) 異議なし。

(大川会長) それでは、皆さんにお諮りするが、清田副会長と小川委員をご推薦申し上げるということによろしいか。

—各委員拍手—

(中嶋町民窓口課長) ありがとうございます。初回の会議は7月22日を予定しているので、書面をもってまたお願いしたいと思う。どうかよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

5. 報告

(1) 寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業平成28年度採択事業について(資料5)

(大川会長) それでは、次第の5報告事項で(1)寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業平成28年度採択事業について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) —資料5の説明省略—

寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業は平成27年度から開始したが、事業を進めていく中で幾つかの課題が出てきたことから、委員の皆様から頂いたご意見、ご提案等を踏まえ、平成28年度の事業実施に向けて提案手続き、協働事業選考委員会の構成等について見直しを行い、条項等を一部改正した。平成28年度の採択事業は、提案書類の受け付け後、事業協力課を決定し、4月14日には提案団体及び事業協力課による公開プレゼンテーションを実施した。事業の目的や内容、事業費、実施スケジュール等の説明を受けて質疑等を行い、選考委員会で審議を実施し、選考結果を町長に報告し、5事業を採択した。

※補助額について

事業①：23万8,000円、事業②：30万円、事業③：30万、事業④：26万2,000円、事業⑤：2万7,000円。提案事業5事業について、補助金交付申請、補助決定等の手続きを経て5月中に補助金の合計

112万7,000円の交付を行い、事業に取り組んで頂いている。

(芹澤協働文化推進課長) 補足の説明をさせて頂くと、平成28年度事業の、事業④・⑤が平成27年度からの継続の事業となっている。

(村崎委員) 子ども未来塾だが、補助金の使途として、教員OB等の方が子どもに対して教える等の人件費は対象なのか。

(事務局) 謝礼になるが、予算の内訳として該当しているので使える。

(芹澤協働文化推進課長) 会員の方への謝礼や報酬は対象外だが、外部の方を講師として招いた場合の謝礼は、費目としては認めている。

(村崎委員) 会員、外部の区別をきちんと団体の方にも話し、決算の時に誤りのないよう、ぜひお願いしたいと思う。

(芹澤協働文化推進課長) 事業の申請時に、団体の会員名簿をつけて頂いているので、謝礼を支払った場合には、どなたに対して支払ったかは確認をしていく。金額の部分も、帳簿類は全て備えつけて明細はきちんと確認が出来るようにという形になっているので、確認をしていきたいと考えている。

(大川会長) よろしいか。

(村崎委員) 事業③について、ネコの去勢手術費用は事業費として払うことが出来るという理解でよろしいか。ネコの去勢手術1件につきいくらなのか。

(芹澤協働文化推進課長) 手術費用は対象となる。事業費の収支予算書には1件1万円、38匹分で38万円の手術費用が計上されている。

(村崎委員) 補助額の上限は30万円だが。

(芹澤協働文化推進課長) 町の補助金の他に、団体で事業費を充当しているものがある。

(大川会長) 寒川の動物病院は2万円ぐらいらしい。茅ヶ崎の方から来てやって頂く。

(村崎委員) 事業④だが、昨年度の補助額(27万3千円)に対して、EM菌とEMぼかしで14万円かかっているが、町としてEM菌の使用を認めているのか。それとも補助金の用途は団体の裁量に任されているので、結果として報告を受けたという位置付けなのか、どちらか。

(芹澤協働文化推進課長) 申請書の中で、事業費としてEM菌、EM活性液を使って事業を実施するという提案の内容になっている。事業の収支予算書もそれも含めたものとなっており、事業協力課と、こういうものを使ってこういう活動をするという事前相談もしっかりと受けた上で提案がされているという形になる。

(村崎委員) 町としては、団体に基本的に任せているという位置付けか。

(芹澤協働文化推進課長) 把握をして事業の提案を受けている。

(大川会長) 何か問題があるのか。

(村崎委員) EM菌を町は推奨、公認しているわけではないと私は理解しているが、一回そういう議論があったので、その時の議論と違う見解が出るのは気になる。

(大川会長) 特にEM菌を使うことは、植栽や環境に対して問題はないということなのだろう。別で、村崎委員が指摘しているのは、EM菌を土壌の中に入れるということか。

(村崎委員) 良いのか、悪いのか、長い目で見た時に環境問題に影響があるのか、ないのかは専門家ではないのでわからない。町として、公認しているというわけではないという理解で私は見ているのだが。

(芹澤協働文化推進課長) 町がEM菌を使ってこの事業を進めてほしいというものではない。団体から提案された事業にこういう材料と予算を使うという申請があり、それを事業協力課との事前相談を通して選考委員会に諮って決定をされるという流れになっている。

(村崎委員) はい、わかりました。

(大川会長) 私もよくEM菌についてはわからないが、発酵菌なのでそんなに周囲に害を与えるということはないのではないかと思う。農薬などではない。

(村崎委員) 長い目で見た時に環境に悪影響がないことを願っている。

(大川会長) いずれにしても、さむかわ川・花協議会は、実績づくりに無理やり人を集めているような感じがしないでもない。例えば、刈払機はバッテリー式があり、確かに音もしなく環境的には良いが、9万円位ではあまり長時間使用に耐えないのではないかという感じがする。もう少し、都市計画はボランティアという考え方をきちんと出してやってもらわないと、事業協力課のみからの実績報告だと非常に困るので、その辺は担当部課の方で目を光らせてきちんとした実績が上がるよう指導して頂きたいと思う。

(芹澤協働文化推進課長) わかりました。しっかりとやらせていただく。

(山口委員) 会社だと事業所が刈払機を使う時には、安全衛生法で講習を受けた人を講師でやらなければいけないという法律がある。事業とつした場合に、視察事業者が出てくると思うが、そうした時に安全教育というのはどこが面倒を見るのかというのが1点、気になった。

(芹澤協働文化推進課長) 町の職員の中に指導できる者が居る。また、団体の中でもそういった作業をされている方も居るので、安全指導も事業協力課等からしっかりするようにする。

(山口委員) 安全衛生法だと、記録も残すことになっているので、事業としてやるのであれば、何かあった時に言われたいようお願いしたい。

(芹澤協働文化推進課長) はい。ありがとうございます。

(大川会長) 他にご意見等あるか。

(若林委員) 事業②だが、中学3年生を対象にした期間補習授業は、高校入試の部分の手助けを町でもしようということなのだと思う。例えば、町内には3中学校あり、その校長等に、こういうことをやるのでその補習を受けたい人を募集しますというふうになってくると思う。夏期授業、夏期補習などもそろそろやり始めているところもあるが、そういったような学校サイドの計画とリンクして、どんな形をやるのか、もう少し具体的なことは何で見るのか。

(芹澤協働文化推進課長) 子ども未来塾は、貧困の連鎖を断ち切りたいということで、生活困窮家庭のお子さんを対象に、高校進学に対して支援をしていこうという取り組み。生徒募集については、生活困窮家庭という事業でデリケートな部分があるので、大きく公募をする形ではなく、学校長等を通して教員から声をかけて、こんなものがあるよというような投げかけをして生徒を募集していきたいとプレゼンテーションの時に報告があった。教育委員会が実施している寒川にここ学習会は、いわゆる補習授業を中心に学力向上を図っていこうというもの。その部分では、教育委員会と連携していきながら、学力向上、並びに生活困窮家庭の進路支援のようなことに取り組んでいこうと聞いている。

(若林委員) 当然、こういう人がいるので手助けしたいとある程度予測が出来るのだろうか。

(芹澤協働文化推進課長) はい、そうです。

(若林委員) 当然、また来年の今頃成果等を発表する時に非常に興味深く見守ってきたいとは思っている。

(芹澤協働文化推進課長) プレゼンテーションの時の話だと、対象者は15人位を目標としているという説明もあった。最終的な目標としては、参加した生徒が100%、志望高校に進学することで、それに向かって教育委員会や学校と連携しながら進めていくということ。

(大川会長) ただ、現実的に町が議会や推進会議を通すと、7月位になってしまうので、そこから1月位までの学力向上より、私はむしろ1年、2年の方が良いのではないかと申し上げたが、提案者は3年生で実施されるということだった。教育委員会と相談されるようなので、今後変更等あるかどうかはわからない。

(芹澤協働文化推進課長) 教育委員会では小学5・6年生、中学1、2年

生を対象に実施し、生活困窮のお子さんの受験指導的な部分を実施するという棲み分けで総体的に進めていきたいということ。

(大川会長) それでは、(1)についてはよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(2) 会議の公開・パブリックコメント等の状況について (資料6)

(大川会長) 次に、(2) 会議の公開・パブリックコメント等の状況について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) —資料6の説明省略—

過去数年の実績を見ると、傍聴の周知や議事録の公表について、大体7割、8割の実施となっているため、今回まとめた結果は職員に周知し、会議の公開について積極的に取り組むよう努めさせていただきたいと考えている。

(大川会長) 他に質問等あるか。ないようであれば次に移る。

6. その他

(会長) その他について、事務局より説明をお願いしたい。

(芹澤協働文化推進課長) 第4期の寒川町まちづくり推進会議の委員の皆様には、平成26年7月1日から平成28年6月30日までを任期として、推進会議のみならず、各委員会での会議活動など、大変多くのお力添えをいただきましたこと、この場をおかりしまして改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。本日が最後の皆様が集まっての会議の場となるため、ここでお時間を取りまして、お一人ずつ、一言ずつご感想やご意見等を頂戴できればと思う。大変申し訳ないが、島村委員から反時計回りでお願いしたい。

(島村委員) 恥ずかしい話だが、「協働」という言葉は、先ほどのアンケート結果にもあったとおり、公募委員を応募する時まで知らなかった。菊地委員長、村崎委員、皆さんと一緒に協働PR委員会で協働というものを自分自身、勉強しながら、こういう形があるのだなということを知りながらの2年間だった。大変素晴らしいチラシも一緒に作らせて頂き、自分自身の収穫はたくさんありました。やはり、アンケート結果のとおり、これをどうやって皆さんに知って頂くかというところが、もう1期やらせて頂くように手を挙げさせて頂いているが、その際の仕事にしていきたいと思っている。2年間ありがとうございました。お世話になりました。

(小川委員) 私もほとんど知識がないままやらせて頂いたが、最初の論文を書く時から勉強の開始だった。ところが、論文は書いたものの、まだまだ解釈が浅かったので、この会議で小林先生のお話などで教えて頂いたり、皆さんのご意見を聞いたりしてすごく勉強させて頂いた。これをどう

いうふうにこれから生かせるらいいのかということが自分の課題だと思っている。ありがとうございます。また、よろしく願いいたします。

(村崎委員) 私もあと2年公募委員を務めさせて頂く。この寒川町まちづくり推進会議委員として何をすればいいのか、それから、どれだけの頻度をかければ少しでも町のためにお役に立てるかということでは、残念ながら、自分の中では消化できていない。もっとするのならやりたい。頻度も多く、テーマもちゃんと自分なりに、これをして、こういう結果を出したいというのを、出来ればこの推進会議の中で発揮出来ないものかと、少しまだくすぶっている感じではあるが、この2年は次の2年にかけての踏み台として頑張りたいと思う。よろしく願いいたします。

(菊地委員) 私は今期で、降りさせて頂くのだが、大川会長のご理解のもと、随分一生懸命にやらせて頂き本当に有難く思う。委員会の開催に当たっては、村崎副委員長にも随時、やりとりなど一緒にして頂き、また、委員会も随分多くやらせていただきましたので大変満足した会議だったなと思う。ありがとうございました。

(藤井委員) 途中から参加したため、なかなか溶け込めない部分があったが、山口さんをはじめ、まちづくりワクワク委員会に多く参加させて頂き、また、アンケートについては、皆さんも一生懸命に苦勞されて、良い意見も寄せられたので、いかにこれから学校、あるいは町民の方に反映されるように、町の事務局も頑張りたいと思う。よろしく願いいたします。

(大谷委員) 皆さんにお世話になりっ放しだったのだが、自治会の立場からすれば住民目線というか、住民中心で物を見るということで、何か出来ればと思い1年やってきた。結果として、協働という言葉がやはり頭に相当強く残り、まちづくり推進会議ではなくて、協働推進会議でもいいぐらいに、協働というのが非常に大事だと思う。菊地委員長もお話されたが、チラシの作成等でPRをしているが、私の感覚的には、まだまだそういう意味では町民には徹底していないということで、色々な広報を作ったりして町民に知らしめるということを行政にお願いしたいと思う。お世話になりました。

(山口委員) 私は、工業協会から途中参加ということで、今回で降りますが、4年やらせて頂いた。この4期の中では、小林先生から一つでも、小さい工夫でもいいから一歩実施していこうという言葉が本当に心に残った。実際にやってみてそこまで行っているかどうかはわからなかったが、自分の中では工業協会の代表と、一町民としてどっちで行ったらいいかと事務方に聞いたところ、どちらでもいいですということで、最後の方は、少し一町民の立場で言った部分が多くなったが、その中でも、色々な意味

でやはり、参加出来ない人は参加している人以上の割合が多いと思うので、この辺を今後くんでいくと、寒川町は良くなるのかという感じがする。本当にありがとうございました。

(田邊委員) ただ「行け」と言われただけで何が何だかさっぱりわからない状態でこの1年間過ごさせて頂いた。私も、はっきり言って、まちづくり推進会議委員ということすら、どういうものなのかも知らないし、もちろん協働も、参画も何もわからない状態だったが、1年間、山口さんをはじめ、皆様に色々な意見を聞きながら勉強をさせて頂いた。1年間どうもありがとうございました。

(森井委員) 結果的には、アンケートはやって良かったと思っている。とても良い意見を多く頂けて、回収率も44.9%もあったのは、私としては自負したりして、内容もとても良く、こんなに若い人がやってくれてありがたいという意見もあったりして、本当に嬉しかった。アンケートの実施にあたり、行ったり帰ったりと擦った揉んだあったが、結果的に実施出来て良かったと、とても良い結果が出たことに本当に感謝している。2年間ありがとうございました。

(平本委員) 私はこれで4年目と続けてやらせて頂いているが、今回のアンケートは、最後の方はどうなるのかと思い本当に心配していたが、町長の一言が効いたのか何とかうまくいった。学校長の会議に出たときは、どうなるのかと思ったが、町長が学校を通してやってほしいということ言われたので、学校からやって頂き本当に、自由意見が多くあったということは、読んでみてみんなすごいなと思った。来期も、そういうものを続けてやっていきたいと思うので、よろしくお願いします。

(今井委員) この2年間で、本当に色々なことを勉強させて頂いた。私は、どうしても青年会議所をやっていると、町と一緒にやるというのは当然だというふうに考えていたが、町民の立場になってみると、決してそうではないのかというのを強く思った。また、今日の資料のアンケートを読ませて頂いて、これはすごく良いアンケートだと思うので、会に帰りメンバーにぜひ見て頂きたいと思っている。なかなか町民の意識がまちづくりに参加する形になっていないのかなということも、このアンケートを読ませて頂いて感じた。そこを何とか私たち、青年会議所を中心として、若者世代で少し変えていかなければならないのかと改めて感じた。今月から私たち青年会議所と商工会青年部と農協の青壮年部、それから町の企画政策課の人たちが中心となり、さむかわ若者会議というのを立ち上げさせて頂く。そこで、今日のアンケートにあったように、若者の世代に何とかまちづくりに参加して頂きたいという運動をしていこうと考えているので、ぜひ、

その際は皆様のご協力を頂ければ有難いと思っている。2年間、大変ありがとうございました。

(若林委員) 平成26年からこの会議に本会議も含めて、まちづくりワクワク委員会を皆さんと一緒にやってきた中で、各委員の話を出席して聞いてみると、本当に皆さん、まちづくりを一生懸命に考えてくれているのだなということを感じた。大川会長も言われていたが、私も寒川で生まれ育った中で、やはり、寒川町をこうやってみんなで考えていくのが良いのかというふうに思っている。非常に良いアンケートを頂き、これを町長さんに上げてもらい、色々な役場の人達にも見てもらうが、これを具体的にどういう風に町に実施していってもらえるかというのが非常に大事だと思う。その歩留まりというようなことも少し見ていきたいと思っている。アンケートの中で認知度では、自治会と子ども会と広報というのは三点セットで、色々なことに対して、もうそれで大体50%以上を占めてしまう。なので、この前も会議で言ったが、町としてももう少し皆さんにそういうものを知っていたか、知っていないかというようなところのPRを補強的にもっともっと、色々なアングルからしてもらえればと思う。私はこれで卒業させてもらうのだが、この会の益々のご発展をお祈りいたしておりますので、今後とも頑張ってくださいと思う。またどこかで会いましたら、よろしくお見知りおきいただければと思う。よろしく願います。ありがとうございました。

(小林委員) 色々なことを申し上げまして、2年間務めさせて頂いた。大川会長、副会長の清田さん、大変すばらしい運営で私、頭が下がる思いでいる。この委員会が全国の委員会と極めて異なるところは、完全に住民主体でやっているところ。常識的な自治基本条例の委員会というのは、学識経験者等がこの辺に座り、行政の委員の言いなりになりながら、住民の皆さんを懐柔し、行政の方向性のある自治を進めていくというのが、多くの委員会の姿である。しかし、この会に参加してみると、実に、まず自分たちで動く。住民の視点側に立った自治基本条例の最高会議があり、それが今度は、2つ目の特徴として、自分たちできちんと動く。つまり、自分たちでアンケートをとりいき、山口委員が動かれていたが、住民の皆さんが住民にPRするというような、菊地委員が一生懸命リーダーになってやられた活動、そういう自分たちが動くという活動で、住民と住民の繋がりをきちんとつくろうとするということでは、全国の中でも極めて珍しい委員会活動だろうと思う。それに加えて、皆さんの負担は増えたが、1つは、協働事業にこの委員会がかなり関わり、今日も事業の内容を見てきまして、ああしたほうがいいのか、こうしたほうがいいのかという色々な考

え方が出てきたと思う。それと同時に、今日また、大変だと思うが、わたしの提案制度にも、部長さんたちと一緒に住民が参加するという、極めて良好な関係が出来てきたのだらうなというふうに思う。協働というのは、平等できちんと割れるようなものではなくて、たまには行政が大きいときもあり、また、逆に住民が大きく位置を占めることもあるが、答えのない領域で、菊地委員ほか協働PR委員会の皆さんがつくられた協働の最後の握手は、相当なけんかをした後に握手するという状態が常だと思う。その運用をするためのこの会議は、寒川町は本当に珍しい、全国でも先進的な事例になり得るポジションを持っていると思う。ぜひ、このままのスタイルで進めて頂けると、全国の模範となる、特に自治基本条例に基づく住民自治の模範となる形になっていくのではないかと本当に思った。時間があれば、本当はもう1期も2期もお付き合いして、またさらに委員会にも本当は参加しなければならなかったが、残念ながら、私も周りの事情が許さなく、この委員会しか出られなかったが、ぜひ、皆さんがこれからも、このスタイルで信じて色々な活動を進めて頂けたら、この町は大きく変わっていくだろうというふう実感している。すぐそこに大学があるので、これからも何かありましたらお声をおかけ頂ければいつでも参ります。ぜひまた、皆さんのご活躍を近くで見守っていきたいと思う。2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

(清田副会長) 私自身は、本当に長々とお付き合いをしており、本当にもう卒業しなければいけないのだが、また来期務めさせて頂く。つくづく実感するのは、皆さんのこれだけの意見を、行政側がどれだけ咀嚼し、具体的な政策の中に入れて頂けるのか、そこにかかっていると私は思っている。これだけの意見を皆さんが出している。もちろん、予算があり、優先順位も行政サイドにあるのは、それはもう当たり前のことだが、それが、何としてもこのまちづくり推進会議の根本であると思うので、ぜひ、また皆さんの良い知恵を報告書として頂き、また、行政サイドにその意見をよく取り上げて頂いて、具体的に、あなた達の意見はこういう形で反映しましたという見えるもので、フィードバックして頂きたい、そういう努力をこれからも続けていきたいというふうに思う。どうも2年間ありがとうございました。

(大川会長) 本当にこの会については、知識はあったのですが、どういうことをやっているのか内容はさっぱりわからなく、慌てて前年度の議事録を読ませて頂いたが、皆さんのお力添えで、特に2つの委員会の正副委員長さんや委員の皆さんには、本当にボランティアで色々と積極的に取り組んで頂いて報告書を出して頂くことになった。その間にも、他のことにも

色々と新たな任務が加わってきたりして、なかなか忙しい2年間だったと思っている。私自身も、よわい80になる。まだシルバー人材センターや、南インターの区画整理とかを町に頼まれてやっており、こちらのほうは今期で卒業ということにさせて頂きたいと思う。あとは、残られる方にご期待を申し上げたいと思っている。寒川町も、色々な意味で取り組んでいるのだが、まだまだ他の市町村より落ちるのが企画力なのかなというふうに思う。黒字財政だと言われながらも非常に財政難だということで、茅ヶ崎の方がよほど財政難なのだが、毎年のようにコミュニティセンターをついている。どこにその差があるのかなと思うのですが、やはり、そこらは、入札制度などの細かなことよりも、むしろ企画力で、国は膨大な予算を毎年、毎年計上しているものなので、やはり、国の予算を頂きながら、あるいは、それに付随して県もつけるので、そういうものを積極的に取り入れながら次の世代へどういう参加をつくっていくかという企画力を、職員の皆さんが、どうも企画財政というと数字ばかり追いかけていて、見てもおもしろい人は一人もいないような感じで、そうではなくて、もう少し町民の要望に応えるような、そういう施策、企画をどういうふうに立てていくのかということが一番問われているのではないかというふうに思っている。財政的には、黒字財政で力はあるわけなので、それをいかに活用して良い町をつくっていくか。今はソフトの時代だが、寒川の場合は、倉見の新幹線や、田端西地区まちづくりなど、最近では寒川神社と組んでにぎわいのまちづくりとか、何かハードばかり追いかけている感じで、そのハードがまとまるのかというと全然まとまらないで先行き五里霧中。なぜこんなに財政が逼迫になったかという、もう答えは出ている。駅周辺整備事業に200億円ぐらい使ってしまった。これでもう町はすっかり金がなくなってしまった。八十数億円の自己財源があるわけなので、きちんとうまく使えばもう少し良い運営が出来るのではないか。そこら辺は本当に、ハードばかり追いかけないで、もう少しソフトの方に力を入れながら、良いまちづくりをしてもらいたい。それには、来年度も、残りという用語弊があるが、取り組んで頂ける皆さんにぜひ期待を申し上げて、また、2年間本当にお世話になり、良い報告書ができ上がったことのお礼を申し上げ、ご挨拶にかえたいと思う。どうもありがとうございました。

(芹澤協働文化推進課長) 皆様から貴重なご意見、ご感想を頂きまして本当にありがとうございました。力のない事務局を本当に色々と委員の皆様を支えて頂きまして、私は就任して1年なのですが、この1年、色々な面で支えて頂きまして、何とかこういった形で報告書としてまとめ上げて頂いたのは皆様のお力があつたからだと感じています。改めまして、お礼を

	<p>申し上げます。ありがとうございました。本日は、前段の報告会も含めまして、長時間にわたりましてご議論いただき、本当にありがとうございました。これをもちまして会議を終了とさせていただきます。最後に、清田副会長のほうから閉会のお言葉をお願いしたい。</p> <p>7. 閉会 【副会長】 省略 ～午後 4 時 5 5 分閉会～</p>
<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次 第 第 4 期寒川町まちづくり推進会議 第 7 回会議 ○資料 1 第 4 期寒川町まちづくり推進会議報告書（案） ○資料 2 協働PR委員会報告書 ○資料 3 まちづくりワクワク委員会報告書 ○資料 4 寒川町わたしの提案制度運営要綱 ○資料 5 平成 2 8 年度寒川町みんなの協働事業提案制度 モデル事業採択事業について ○資料 6 会議の公開・パブリックコメント等の状況について
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>田邊委員、平本委員（平成 2 8 年 7 月 2 2 日確定）</p>